



神奈川県労連9/10に第39回定期大会開催！ 建交労神奈川県本部は高橋書記長が発言

神奈川県労連は、9月10日(日)横浜市従会館に於いて第39回定期大会を開催しました。出席は27組織・代議員112名、役員22名、オンライン2名で、建交労からは県本部の高橋書記長、中高年事業団の平山さん、神奈川県南支部の小島が出席しました。

住谷議長は主催者代表のあいさつで「岸田政権はいのちを奪う武器輸出、横浜ノースドッグの基地強化など、憲法を無視して常軌を逸した政治を行っており、絶対に阻止しなければいけない」と呼びかけました。つづく来賓あいさつでは全労連の黒澤事務局長が「たかろう労働組合のバージョンアップや職場の日常活動の重要性など」を強調されました。また、日本共産党の畑野君枝さんは「最低賃金が低すぎる。最低賃金を上げるには労働組合の運動が重要だ」などと話されました。

山田事務局長 (右の写真) は新年度にもっとも重視する運動は「大幅賃上げ、最賃1500円・全国一律最賃制度確立、組織の強化と拡大」と提起しました。

討論では23名が各組織の活動報告や決意表明、争議支援の呼びかけなどを発言、建交労からは高橋書記長 (下の写真) が三昭運輸争議解決のお礼とメイ



ショクアソシエツ争議の勝利への決意を表明。また、軽貨物の組織化が進む一方でインボイス制度の強行によって廃業せざるを得ない状況が起きていること、ヤマト運輸と日本郵便の提携の問題点について発言しました。争議組合紹介では6名から争議勝利に向けた決意表明があり最後に住谷議長の団結がんばろうで閉会しました。(本文は小島支部委員長が執筆)

第46回神奈川県本部委員会は9/24に開催！

建交労神奈川県本部は、第46回委員会を9月24日午後1時30分から、かながわ労働プラザ (JR京浜東北・根岸線「石川町駅北口」から徒歩3分) に於いて開催します。

この委員会は10月15日に開催する県本部第25回定期大会を成功させるための極めて重要な機関会議です。神奈川県南支部には清野県本部副委員長の他に8名の委員が割り当てられています。各分会は必ず委員の出席を徹底してください。



軍事費けずって、国民生活をまもろう！

原子力空母いらない！横須賀集會

憲法改悪許すな！オスプレイNO、爆音なくせ！原発ゼロ！戦争法廃止・市民と野党の共同で政治を変えよう！

10月1日(日)午後3時開会 横須賀市・ヴェルニー公園



【原子炉2基を積む空母＝東京湾に浮かぶ原発】

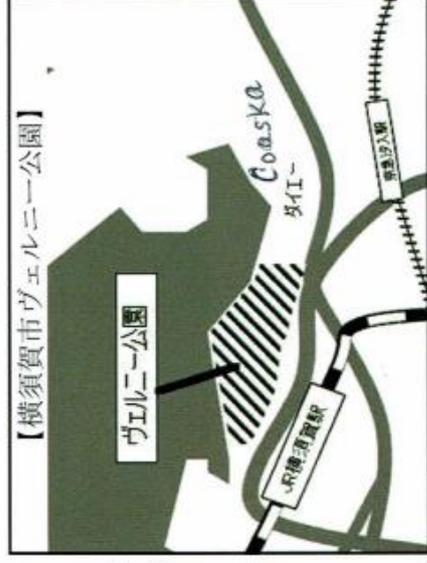
在日米海軍横須賀基地は1973年10月に米空母ミッドウェーの「母港」とされ、2008年に原子力空母ジョージ・ワシントンの配備。2015年10月1日、原子力空母ロナルド・レーガンの交代配備。横須賀はベトナム戦争など米国の侵略と干渉の出撃拠点とされてきました。今年で50年、半世紀となります。さらに、来年24年後半には、現在の空母レーガンに代わって、新たに装備を強化した最新鋭艦となった空母ジョージ・ワシントンを買って戻す計画が報じられています。米国の横須賀を遠い将来まで母港とし、永久母港化を狙っています。これに日本政府は追従しています。米本国外で米空母の母港としているのは、世界中で日本だけであり、横須賀だけです。

憲法の「専守防衛」を突き崩し戦争につながる「反撃能力」（敵基地攻撃能力）の保有。「5年で43兆円」という大軍拡。大軍拡のために国民への大増税と福祉切り捨て。これを岸田内閣は強行しようとしています。

日本の法律で規制できない原子炉をもつ米原子力空母とその「母港」横須賀。事故が起これば首都圏3000万人の命と暮らしを直撃する事態になりかねません。

「空母はいらない」「軍備拡大をやめ、国民の暮らしを守れ」の世論と行動を大きくしましょう。

※集会后にデモ行進（出発予定4時）を行います。



【横須賀市ヴェルニー公園】